

ピーアンドエルジャパン株式会社
ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

2025 年 3 月 31 日

77
R&C 七十七リサーチ&コンサルティング

地域と共に、未来をつくる

目次

はじめに	3
本評価書に関する重要な説明	4
連絡先	5
企業理念及びサステナビリティ方針	6
1. 企業概要	6
2. 企業理念	12
3. サステナビリティ	13
インパクトの特定及び評価	15
1. インパクトの特定	15
2. インパクトの評価	24
モニタリング	26
1. 当社のモニタリング体制	26
2. 七十七銀行によるモニタリング体制	26
結論	27
参考	28
1. ポジティブ・インパクト・ファイナンスについて	28
2. ポジティブ・インパクト金融原則について	28

はじめに

七十七リサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「77R&C」）は、株式会社七十七銀行（以下、「七十七銀行」）が、ピーアンドエルジャパン株式会社（以下、「当社」）に対してポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、当社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブ・インパクト及びネガティブ・インパクト）を分析・評価し、「ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書」（以下、「本評価書」）を作成した。

本評価書における分析・評価は、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則及び PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、七十七銀行が開発した評価体系に基づいて行っている。

なお、七十七銀行が開発した当該評価体系については、株式会社格付投資情報センター（以下、「R&I」）からファイナンスに関する第三者意見書の提供を受けている。
(https://www.r-i.co.jp/news_release_suf/2024/03/news_release_suf_20240315_jpn_1.pdf)

本評価書に関する重要な説明

1. 本評価書の内容は、77R&C が現時点で入手可能な公開情報、当社から提供された情報や当社へのインタビュー等で収集した情報に基づいて、現時点での状況の評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではない。
2. 77R&C が本評価に際して用いた情報は、当社がその裁量により信頼できると判断したものではあるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではない。77R&C は、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではない。また、77R&C は本評価書を利用したことにより発生するいかなる費用又は損害について一切責任を負わない。
3. 本評価書に関する一切の権利は 77R&C に帰属する。評価書の全部又は一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）、又は使用する目的で保管することは禁止されている。

連絡先

本件に関するお問い合わせ先は、以下の通り。

七十七リサーチ&コンサルティング コンサルティング部
〒980-8777 宮城県仙台市青葉区中央三丁目 3 番 20 号

氏 名	電話番号
平井 あや	022-748-7730

企業理念及びサステナビリティ方針

1. 企業概要

【企業概要】

企 業 名	ピーアンドエルジャパン株式会社
所 在 地	宮城県名取市大手町 2 丁目 96 番地
代 表 者	代表取締役 大友 隆行
資 本 金	10 百万円
売 上 高	2,601 百万円 (2024 年 8 月期)
従 業 員 数	154 名 (2024 年 8 月末)
事 業 内 容	1. ペット用品卸売 2. ペットショップ事業 (生体・ペット用品の販売) 3. ペットサービス事業 (トリミングサロン・猫カフェ等)
営 業 拠 点	【宮城県】 1. ペットプラザフレンディ鉤取店 2. ドックショップワンピース松森店 3. サロンドフレンディ名取店 4. ペットプラザあすと長町店 5. ペットプラザフレンディ新利府店 6. キャットラウンジ nonnon 仙台中央店 7. キャットラウンジ nonnon ザ・モール仙台長町店
	【青森県】 8. サロンドフレンディつがる柏店 9. サロンドフレンディ青森浜田店
	【秋田県】 10. サロンドフレンディ秋田店
	【岩手県】 11. サロンドフレンディ盛岡南店 12. Dog Cube by サロン・ド・フレンディ盛岡店 13. キャットラウンジ nonnon 盛岡南店
	【山形県】 14. サロンドフレンディ天童店
	【福島県】 15. ペットプラザフレンディ南相馬店 16. ペットプラザフレンディ小名浜店
	【茨城県】 17. ペットプラザフレンディ水戸内原店
	【埼玉県】 18. ペットプラザフレンディ新浦安店
	【東京都】 19. ペットプラザフレンディ南砂店

【企業沿革】

1973年 9月	仙台市青葉区に「ペットプラザおおとも」を開店し創業
1978年 7月	ピーアンドエルジャパン株式会社を設立
1989年 4月	事務所を仙台市宮城野区に移転、ペット用品卸部門開設
1995年10月	東北で初となるペットオークションを仙台市で開始
2002年10月	事務所・物流センターを宮城県名取市に移転
2008年 4月	ペット事業者専用のオンラインショップを開設
2016年10月	東北で唯一となるトリミングコンテスト「トリミングスタイルコンペティション」を開始
2023年 7月	新業態である猫カフェ「キャットラウンジ nonnon 仙台中央店」を開店

【当社概要】

当社は、1978 年設立、宮城県名取市に本社を構えるペット専門商社である。全国のペット事業者向けにペットフードをはじめとするペット用品の卸売を展開している。また、東北や関東圏を中心にペットショップやトリミングサロン、猫カフェを計 19 店舗（一部併設店舗を含む）運営しており、法人・個人のお客様を問わず、ペットに関するあらゆる商品・サービスをワンストップで提供している。

当社の社名は「Pet & Life」に由来し、ペット関連の商品・サービスの提供を通じて、人と動物が幸せに暮らす豊かな共生社会の実現に貢献するという想いが込められている。

【ペット用品卸売事業】

当社の主幹事業であり、全国のペット専門店やブリーダーなど約 1,600 社の事業者向けにペットフードを中心としたペット用品の販売を行っている。

当社は、100 社以上のサプライヤーから提供される 25,000 点を超える豊富な商品ラインナップを取り揃えており、顧客の様々なニーズや要望に沿った付加価値の高い提案が可能である。

また、当社は顧客の利便性向上を目的に、2008 年から自社オンラインショップを運営しており、365 日 24 時間の注文対応を実現するとともに、システム活用によるコスト低減を通じ、高品質な商品を低価格で提供することが可能である。

近年、ペットの健康志向の高まりを背景とした機能性の高い高付加価値商品の需要増加が見られる一方で、犬の飼育頭数は減少傾向にあり、中長期的にはペット用品市場は縮小することが予想される。

そのような市場環境の中、当社は自社の利益だけではなく、商品の仕入先および販売先といったサプライチェーン全体の利益最大化を重視した経営を実践している。それにより、企業の持続的な繁栄と強固なパートナーシップの構築を目指している。

図表 1：ペットフード出荷額（一部抜粋）

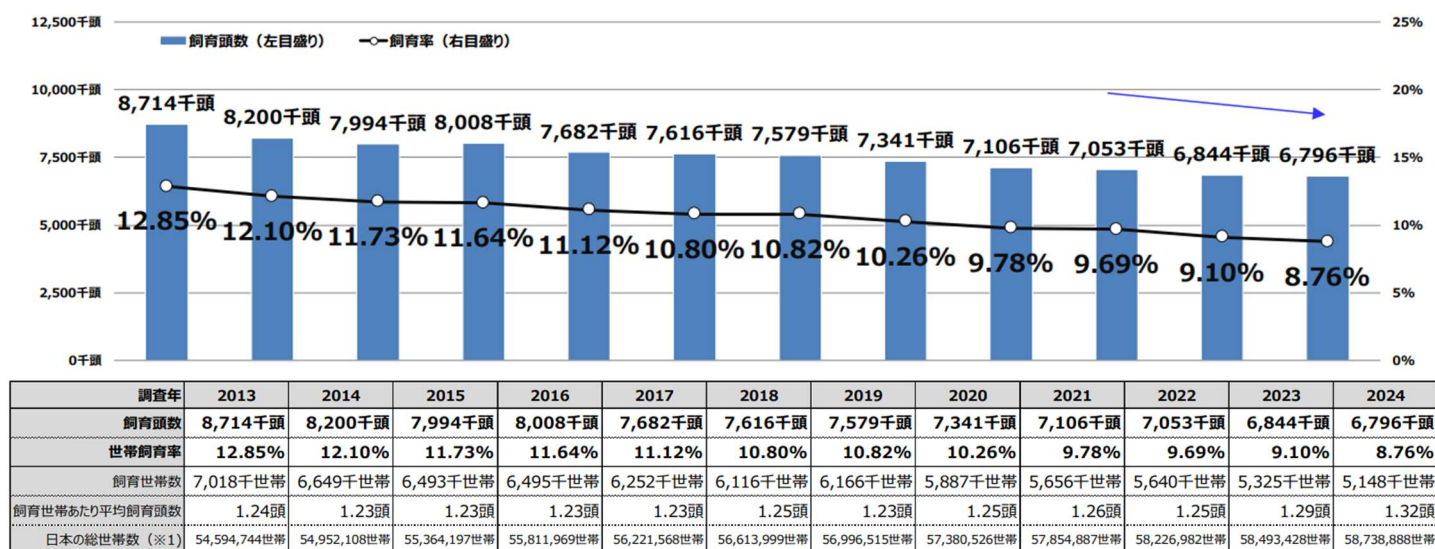
1. 出荷総額

（単位：百万円・％）

5 年度	対前年度比 (令和 5 年度/4 年度)	国内生産品	輸入品
434,922	112.2%	204,291	230,631

【出所：(一社)ペットフード協会「2023 年度ペットフード流通量調査」】

図表 2：犬飼育頭数推移（一部抜粋）



※1・・・世帯数は、総務省発表「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」より。外国人を除く世帯数。施設など一般世帯以外も含む。

【出所：(一社)ペットフード協会「2024 年全国犬猫飼育実態調査」】

【ペットショップ事業】

当社は、ペットショップを 9 店舗運営しており、ペット用品の小売販売や犬猫の生体販売を行っている。当社は、年間でおおよそ 1,500 頭の犬猫を販売している。

当社のペットショップ事業では、卸売事業との連携により仕入コストの低減を実現し、高品質・低価格でのペット用品を提供している。また、ペットサービス事業との連携により、ペットの販売からトリミングなどの定期的なケア・健康管理まで、ワンストップでサービスを提供できる体制を整えている。

77 七十七リサーチ&コンサルティング
R&C

© 77Research and Consulting Co.,Ltd.



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

七十七グループは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

また、当社は「ペットプラザフレンディ」、「ドックショップワンピース」といった様々なコンセプトを持った店舗を展開し、20 種以上の犬猫を取り扱うことで、多様な顧客ニーズにきめ細やかに対応することを可能としている。

当社は、直営店舗に加え、イオンペット株式会社の業務委託店舗の運営も行っており、利便性の高いイオンモール等への店舗展開が強みである。

2023 年には、ペットショップ事業の創業 50 周年を記念し、対外 PR 事業としてテレビ CM の制作・放映を行った。

図表 3：当社が展開する店舗ブランド



ペットプラザフレンディ



ドックショップワンピース

【出所：当社提供資料】

図表 4：ペットショップ店舗例



ペットプラザフレンディ新利府店



ペットプラザフレンディ小名浜店

【出所：当社提供資料】

図表 5：当社 50 周年記念 CM 事業



【出所：当社提供資料】

【ペットサービス事業】

ペットサービス事業では、トリミングやドッグホテルなどのサービスを提供するトリミングサロンを 12 店舗運営している。

トリミングは、犬猫の被毛のカット、ブラッシング、シャンプーや爪切りなどのサービスを提供しており、当社は月間で 3,000 頭以上の施術を行っている。トリミングの効果は、見た目や衛生状態を整える以外に、施術中に動物の全身をチェックすることで、皮膚炎や感染症などの病気の予防や早期発見にもつながっている。これらのサービスは、ペットの健康維持および増進に貢献している。

ドッグホテルは、宿泊および一時預かりも対応しており、預かり時の丁寧なカウンセリングや、預かり期間中の様子のフィードバックを通じて、飼い主の不安解消に向けた、きめ細やかなサービスを提供している。

ペットを家族として迎え入れた後も、動物病院との連携を通じて、ワクチン接種や健康診断などのアフターサービスを提供し、ペットの健康的な生活を包括的にサポートしている。

また、2023 年には新たに猫カフェ「キャットラウンジ nonnon」の運営を開始し、人とキャスト（＝猫）が穏やかな時間を過ごせる空間を提供している。家族連れを中心にカップルや学生などの幅広い顧客層から支持を受けており、年間で 45,000 人を超える利用実績を誇る。猫カフェは、キャストの自由気ままな日常の観察や触れ合いを通じて、人のストレス軽減やリラックス効果などが期待されている。

図表 6：当社が展開する店舗ブランド



キャットラウンジ nonnon

【出所：当社提供資料】

図表 7：猫カフェ店舗例



キャットラウンジ nonnon 仙台中央店



キャットラウンジ nonnon
ザ・モール仙台長町店

【出所：当社提供資料】

2. 企業理念

当社の企業理念は、「飼い主様とペットの幸福な生活を共に創るため、革新的で信頼性の高いサービスを提供し続けるパートナー」であり、それを具現化させるべく、以下の指針を掲げている。



Mission

**飼い主様とペットの幸福な生活を共に創るため、
革新的で信頼性の高いサービスを提供し続けるパートナー**

ペットとその飼い主様の生活をより豊かで幸福なものにすることを使命としています。革新と信頼性を重視し、常に新しい技術や知識を取り入れたサービスを提供することで、飼い主様とペットの双方が満足できる環境を創り出します。私たちは、ペットとの生活がもたらす喜びと癒しを広げるために、全力でサポートし続けます。

Vision

**ペットと人が共に健康で幸せな生活を送り、
心身ともに豊かで長寿な社会を実現する**

ペットと人が共に健康で幸せな生活を送ることができる社会の実現です。ペットとの共生がもたらす健康効果や幸福感を最大限に引き出し、心身ともに豊かな生活を提供することを目指します。ペットとの生活が飼い主様の健康寿命を延ばし、より長く幸せな時間を共有できる社会を築くために、私たちは日々努力を重ねています。

Value

最高品質のサービスと信頼を得る提案を提供する。

1. 品質

最新の知識と技術を駆使し、顧客目線で最高品質のサービスを提供します。ペットと飼い主のQOL（生活の質）を向上させるため、常に最適な製品とサービスを追求します。私たちは、すべてのサービスにおいて高い品質基準を維持し、顧客の期待を超える価値を提供します。

2. 信頼

・ ペットショップ事業者向け: 自社の利益ではなく、顧客の成功を最優先に考えます。私たちは、共に成長する長期的なパートナーシップを築くために、顧客の繁栄を第一に考えた提案を行います。
・ ペットオーナー向け: ペットの健康と美しさを追求し、飼い主様に寄り添った専門的な提案を提供します。私たちは、飼い主様が安心してペットとの生活を楽しめるよう、信頼できるアドバイザーとしての役割を果たします。

私たちは、ペットのチカラを信じている。

ペットは、
ヒトの感情を日常から切り離し、開放させ、
しあわせ感で心を満たしてくれる。

心の健康の領域まで達するチカラを持っている。
そして、心の健康は、体の健康へとつながっていく。

だからこそ、これからの社会にその存在には必要だ。

すべての世代に、ペットで元気と健康を。

P&Lジャパン

【出所：当社提供資料】

77 七十七リサーチ&コンサルティング
R&C

© 77Research and Consulting Co.,Ltd.



七十七グループは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

3. サステナビリティ

当社は、ペット事業を通じて人とペットの社会的課題の解決に貢献することを掲げ、人とペット双方のウェルビーイングの実現を目指し、ダイバーシティ推進や動物愛護などに取り組み、人とペットが幸せに生活できる環境の創出を目指している。

また、事業活動における温室効果ガス排出低減に向けた取り組みとして、ペットフードロスや廃棄物の削減を推進し、生物多様性および環境の保全にも取り組んでいる。

【SDGs への主な取り組み】

・環境負荷の低減



当社は、こまめな節電による省エネ活動や DX を活用した納品書等のペーパーレス化による紙の廃棄量の削減、太陽光発電設備の導入による再エネ利用促進等、事業活動における環境負荷の低減に取り組んでいる。

また、当社主力商品であるペットフードに関しては、仕入量の適正な管理による過剰在庫の抑制に取り組んでいる。また、破袋・賞味期限切れの商品をアウトレット品として専門業者にディスカウント販売または引き取りを依頼することで、ペットフードロスの削減にも積極的に取り組んでいる。

・ダイバーシティ & インクルージョン



当社は、性別や年齢に捉われることなく、多様な人材が平等に活躍できる環境の整備を促進している。職場における男女比に関しては、2024 年度の管理職に占める女性の割合は 80.4%となっており、政府が掲げる「女性管理職比率を 2030 年までに 30%以上にする」という目標を大きく上回る水準である。

・動物愛護の取り組み



当社では、店舗等で一定の年齢を超えた犬猫は、里親マッチングサイト「COCORO の里」を活用してすべて里親の募集を実施している。活動の成果として、これまで当社から保健所へ収容された犬猫は 1 頭もおらず、動物の殺処分数ゼロに向けた社会的課題の解決に貢献している。

・地域貢献事業



当社は、地域への社会貢献活動の一環として、金融機関と連携した私募債の発行を通じて、宮城県農業高等学校ならびに仙台総合ペット専門学校へ教育現場で活用される物品の寄贈を行っている。これまでに、溶接用ヘルメットや犬猫用入浴料等を提供しており、地域の教育支援に寄与している。

図表 8：寄贈式の様子



宮城県農業高等学校



学校法人菅原学園
仙台総合ペット専門学校

【出所：七十七銀行 HP】

インパクトの特定及び評価

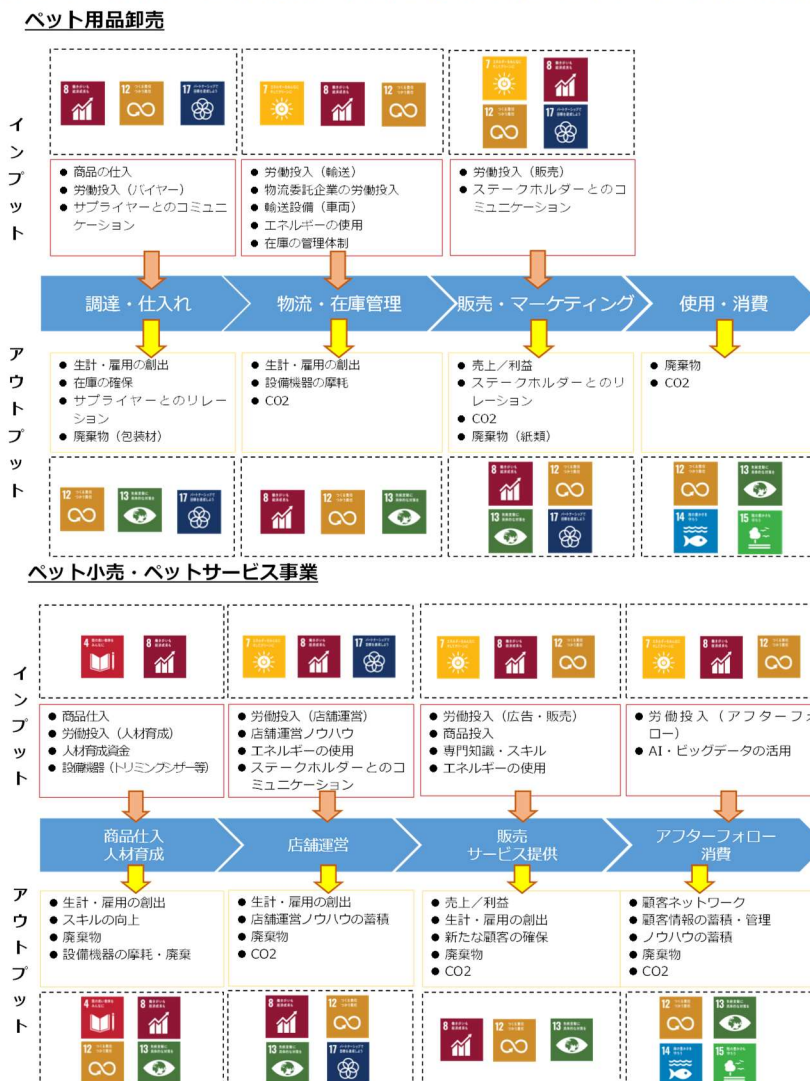
1. インパクトの特定

七十七銀行および77R&Cは所定の「インパクトファイナンス実施体系」に定める包括的分析により、インパクトの特定手続を実施した。なお、特定にあたっての重要な要素に関しては、その裏付けとなる内部資料等の確認および企業との対話の実施により手続を補完することとしている。

(1) バリューチェーン分析

事業性評価および当社との対話をもとに、バリューチェーン分析を行うことで、事業活動におけるインプット（投入物）とアウトプット（成果物）を以下の通り可視化し、各活動が貢献するSDGsのゴールとターゲットとの関連付けを行った。

バリューチェーンによるインプットとアウトプットの可視化



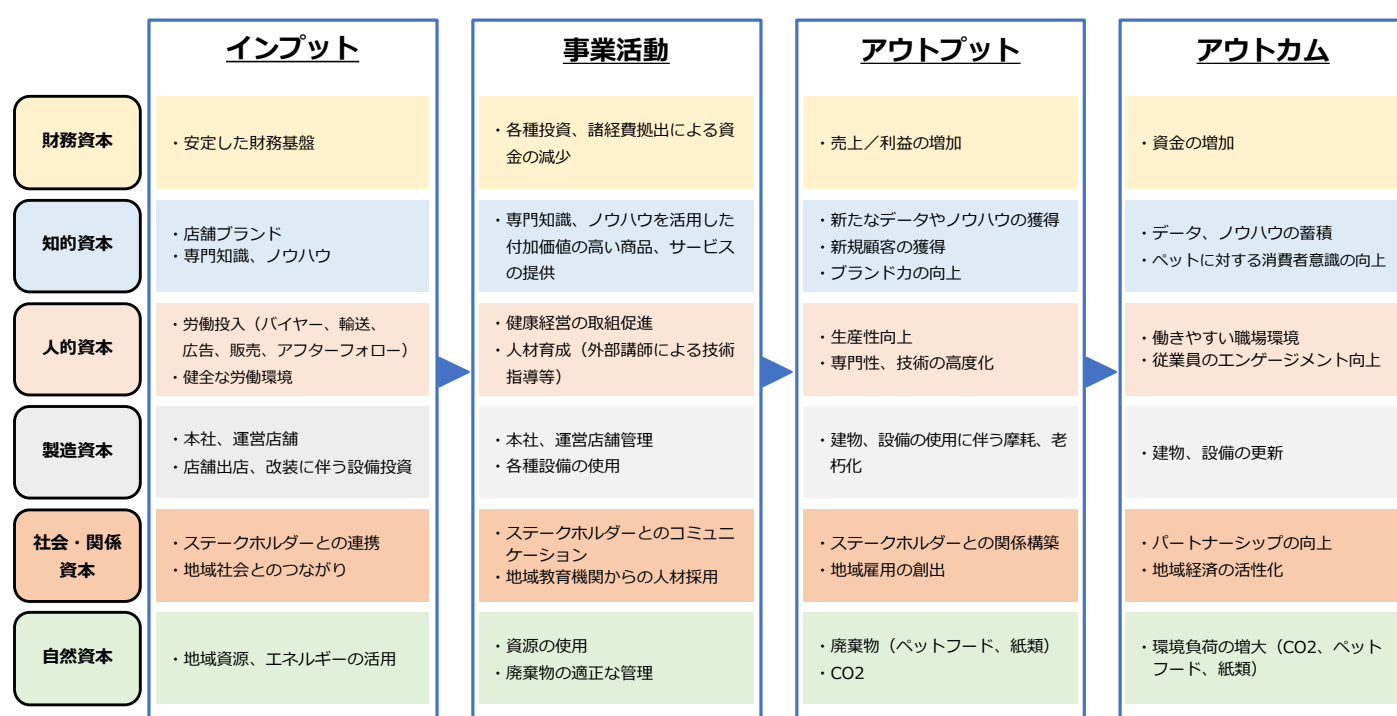
(2) ロジックモデルの作成

バリューチェーン分析を踏まえ、ロジックモデルを作成しインパクトを特定する。
 なお、ロジックモデルとは、投入（インプット）した資本から製品、サービス、副産物、廃棄物を産出（アウトプット）し、利益の蓄積、顧客からの信用向上、地域の活性化等の成果（アウトカム）をもたらすシステム（ビジネスモデル）における、各種資本の変遷（増減・変換）を可視化したものです。

七十七銀行および77R&Cでは、アウトカムが環境・社会・経済に与える影響や変化をインパクトと位置付け、正の変化をポジティブ・インパクト、負の変化をネガティブ・インパクトとして特定する。

当社のロジックモデルは以下の通りである。

ロジックモデル



ロジックモデルにより導き出した当社の主要なインパクトは以下の通りである。

ペットに関する専門知識やノウハウといった知的資本の拡充により、技術の高度化や付加価値の高いサービスの提供が実現している。この知的資本の向上は、専門性の高い人材の育成といった人的資本や財務資本にも好影響を与えている。また、ダイバーシティ＆インクルージョンを推進することで、働きやすい職場環境を整備し、専門的なスキルの習得を目的とした人材育成を強化している。これにより、当社の人的資本が拡充され、ペットに関する消費者意識の向上を促進。結果として、ペットと人が共生する豊かな社会の実現に向けた社会・関係資本の向上にも寄与している。

一方で、当社の事業活動に伴い、廃棄物の増加など環境負荷が発生している点については課題と認識している。しかし今後は、廃棄物の削減や脱炭素への取組を通じ、自然資本への負の影響を最小限に抑えていく方針である。

以下は、それぞれのインパクトにおけるポジティブ・インパクト（PI）とネガティブ・インパクト（NI）の区分のほか、UNEP FI のインパクトレーダーにて該当するインパクトエリア・インパクトトピックを示したものである。

特定したインパクトの整理

PI・NI 区分	アウトカム	インパクト (環境・社会・経済に与える影響)	UNEP FIの インパクトトピック
PIの増大	- ペットに対する消費者意識の向上 - 地域経済の活性化	人と動物の豊かな共生社会の実現	<社会> 健康および安全性、雇用 <経済> 零細・中小企業の繁栄
PIの増大 NIの抑制、管理	- 働きやすい職場環境 - 従業員のエンゲージメント向上	健康的で働きがいのある職場環境の整備	<社会> 健康および安全性、賃金 <経済> 零細・中小企業の繁栄
NIの抑制、管理	環境負荷の増大（CO2、ペットフード、紙類）	環境負荷の低減	<環境> 気候の安定性、廃棄物

(3) インパクトレーダー等の活用

ロジックモデルにより特定したインパクトに関して、UNEP FI が提供するインパクトレーダーとの整合性を確認する。当社の事業活動を国際産業標準分類 (ISIC) 上の業種カテゴリに適用させたうえで、該当する業種を特定してインパクトマッピングを実施した。なお、川上および川下の事業の一部は、当社と同一の業種もしくは、一般個人が当社に与える影響となることから分析を省略している。

下図は、各業種のポジティブ・インパクト (PI) とネガティブ・インパクト (NI) が、インパクトレーダーではどのインパクトトピックにおいて発現すると考えられるかを示したものである。12 のインパクトエリア、38 のインパクトトピックのうち、赤枠で囲っているものがロジックモデルで特定したものである。

ロジックモデルにより特定したインパクトは、インパクトレーダーで示されたものにほぼ該当していることから、客観的にも妥当性を有していると判断できる。また、当社事業と関連のないインパクトエリア・インパクトトピックについては分析対象外とする。

インパクトマッピングによる特定

●…主要なカテゴリ ●…関連カテゴリ

バリューチェーン区分		川上の事業				当社の事業				川下の事業			
国際標準産業分類 [コード]		加工飼料製造業 [1080]		農産品原料及び生き物卸売業 [4620]		食料品、飲料及びたばこ卸売業 [4630]		専門店によるその他新品小売業 [4773]		他に分類されないその他の個人向け サービス業 [9609]		その他の動物の飼育 [0149]	
インパクトエリア	インパクトトピック	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI	PI	NI
社会	人格と人の安全 保障	紛争											
		現代奴隷											●●
		児童労働											●●
	健康および安全性	データプライバシー											
		自然災害											●●
	資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手ごろさ、品質	健康および安全性	●		●		●		●	●	●	●●	●
		水											●
		食糧		●	●							●●	
		エネルギー											
		住居											
		健康と衛生											
		教育											
		移動手段											
		情報											
		コネクティビティ											
		文化・伝統											
		ファイナンス											
	生計	雇用	●		●		●		●		●	●●	●
		資金	●		●		●		●		●	●●	●
	平等と正義	社会的保護		●			●		●		●		●●
		ジェンダー平等											
		民族・人種平等											
		年齢差別											
経済	強固な制度・平和・安定	その他の社会的弱者											
		法の支配											
	健全な経済	市民的自由											
		セクターの多様性											
		零細・中小企業の繁栄	●		●		●		●●				
環境	インフラ	インフラ											
		経済収束											
	気候の安定性	気候の安定性		●		●		●					●
		水域		●		●		●					●
	生物多様性と生態系	大気			●		●						●●
		土壌			●		●						●
		生物種			●		●						●
	サーキュラリティ	生態系			●		●						●
		資源強度	●●		●		●●		●		●		●
		廃棄物			●		●						●

（４）特定したインパクト

以上を踏まえて、当社のインパクトを以下のように特定した。

【人と動物の豊かな共生社会の実現】

当社は、ペットサービス事業において、常に最先端の技術や知識を積極的に取り入れることで、高品質なトリミングサービスを提供している。これにより、ペットと飼い主の豊かな暮らしの実現や生活の質向上に寄与している。

また、当社はこれまでに蓄積されたノウハウを活用し、新規事業への投資も積極的に行っている。その一例として、猫カフェ事業への進出が挙げられる。今後は、東北地方を中心に猫カフェの店舗展開を拡大していく方針であり、それにより地域の雇用創出が期待される。

このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「健康および安全性」、「雇用」、「零細・中小企業の繁栄」のカテゴリに該当し、社会面、経済面のポジティブ・インパクトの増大に該当すると考えられる。

また、当社の取組みは SDGs の以下のターゲットに該当する。「3.9 2030 年までに、有害化学物質、並びに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる」「8.3 生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進するとともに、金融サービスへのアクセス改善等を通じて中小零細企業の設立や成長を奨励する」

【健康的で働きがいのある職場環境の整備】

当社は、人口減少・少子高齢化による労働力不足の深刻化や、インフレによる家計の圧迫など、社会環境の変化に対して、柔軟かつ適切に対応する必要があると考えている。そのため、当社は、ダイバーシティ＆インクルージョンの推進により、多様な人材が持つ能力を最大限に発揮できる職場環境の整備を進めている。特に、当社は健康経営の推進を重視しており、社員の有給休暇の取得促進や健康増進への取組みを強化する予定である。また、モノやサービスの価格が上昇している状況下において、社員のスキルアップや働きぶりを適正に評価し、賃上げを推進していく。

このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「健康および安全性」、「賃金」、「零細・中小企業の繁栄」のカテゴリに該当し、社会面、経済面のポジティブ・インパクトの増大、社会面のネガティブ・インパクトの抑制、管理に該当すると考えられる。

また、当社の取組みは SDGs の以下のターゲットに該当する。「3.8 すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。」、「8.5 2030 年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する」

【環境負荷の低減】

当社の事業活動によって、ペットフードロスや廃棄物の排出、営業車両や配送車両の使用などによる CO2 の排出が環境に負の影響を与える可能性がある。

当社はこの課題に対し、環境配慮への意識を高く持ち、各種環境負担の軽減に取り組んでいる。具体的な取り組みとしては、本社内の照明の LED 化、破袋・賞味期限切れのペットフード等の値引き販売、無償引取りを通じたペットフードロスの削減を行っている。廃棄物の排出削減に向けては、今後 DX を活用し、納品書等のペーパーレス化を実施し、紙の廃棄量の削減を進めることとしている。

このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「気候の安定性」、「廃棄物」のカテゴリに該当し、環境面のネガティブ・インパクトの抑制、管理に該当すると考えられる。

また、当社の活動は、SDGs の以下のターゲットに該当する。「12.5 2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」、「13.1 全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する」

(5) インパクトニーズとの関係性

①国内におけるインパクトニーズ

- ・「SDGs インデックス&ダッシュボード」を参照し、国内のインパクトニーズと当社のインパクトを確認する。
- ・当社のインパクトに対する SDGs は「3,8,12,13」に対して、国内における SDGs ダッシュボードでは、「3」において課題が残る、「8」において重要な課題が残る、「12,13」において深刻な課題が残るとなっており、国内のインパクトニーズと当社のインパクトが一定の関係性があることを確認した。

日本

OECD加盟国



戻る 概要 指標 ファクトシート 政策努力

SDG指数ランキング

18 / 166

SDG指数スコア

79.87

スピルオーバースコア

74.25

SDGダッシュボードとトレンド

目標をクリックすると詳細情報が表示されます。



ダッシュボード： ● SDGsの達成 ● 課題が残る ● 重要な課題が残る ● 深刻な課題が残る ● 利用できない情報

動向： ↑ SDGの達成を順調に進めているか、維持している ↗ 速度に改善している → 停滞 ↓ 減少 **トレンド情報がありません

出所： Sustainable Development report 2024 (SDSN ウェブサイト)

77 R&C 七十七リサーチ&コンサルティング

© 77Research and Consulting Co.,Ltd.



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

七十七グループは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

②宮城県におけるインパクトニーズ

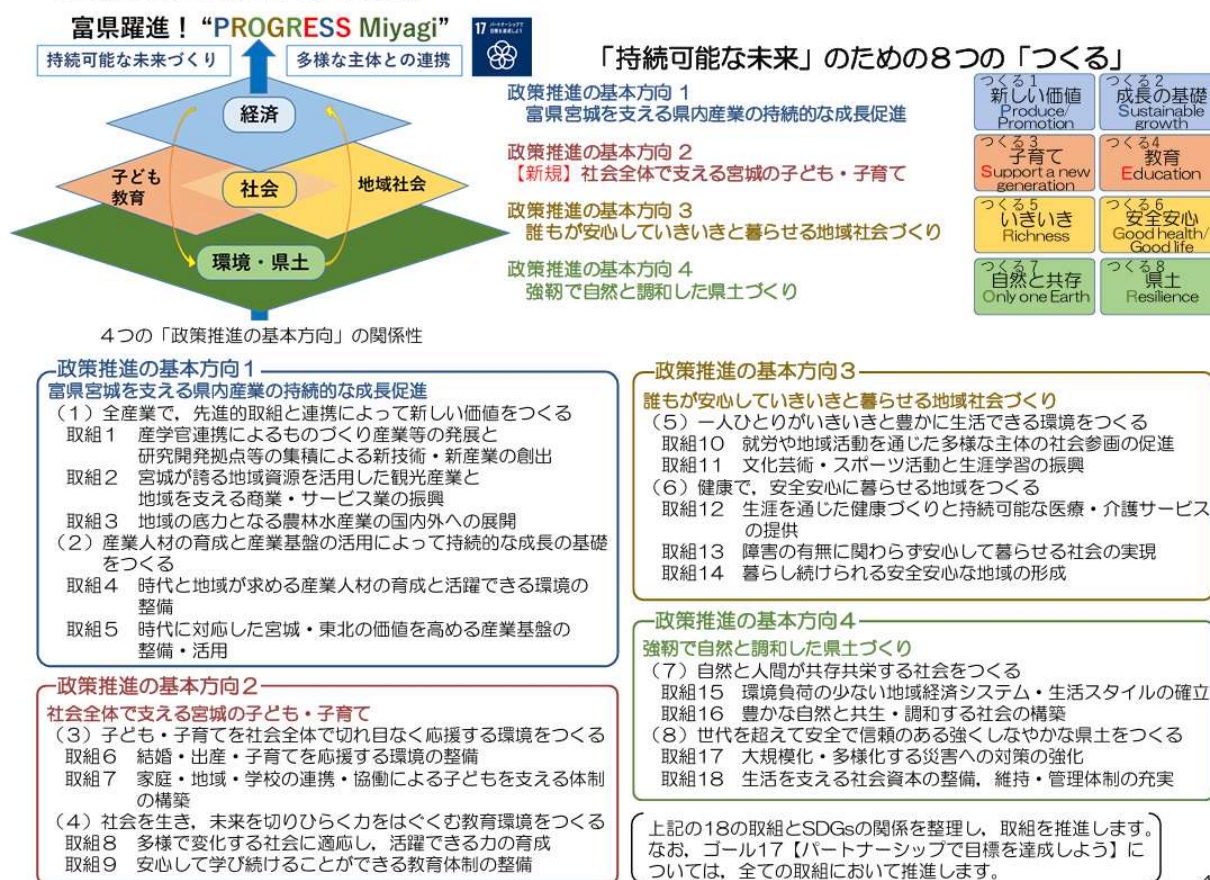
当社の主な事業エリアである宮城県は、「新・みやぎの将来ビジョン」を策定しており、宮城県の「2030 年のあるべき姿」の実現に向けた、取り組むべき課題と政策推進の基本方針が公表されている。

<宮城県基本計画「新・みやぎの将来ビジョン実施計画」>

政策推進の基本方向

政策推進の基本方向「宮城の未来をつくる4本の柱」に基づき、取組を推進していきます。「環境・県土」を基盤とし、その上に成り立つ「社会」と「経済」を柱とした枠組みとしており、さらに「子ども・教育」分野については、社会を構成する重要な要素として独立させ、新たに柱立てしています。また、その基本方向に沿った「持続可能な未来」のための8つの「つくる」と、18の取組を推進します。

なお、8つの「つくる」の英語の頭文字を合わせて「PROGRESS」と表し、震災を乗り越え、躍進する宮城を世界に発信していきます。



4

出所：宮城県「新・みやぎの将来ビジョン」

今回、特定した当社のインパクトに対する SDGs のゴールは、「新・みやぎの将来ビジョン」とも概ね整合しており、当社の取組みは宮城県においても重要度が高いものと判断できる。

③七十七銀行が認識する社会課題との整合性

七十七グループは、創業以来受け継がれる「地域の繁栄を願い、地域社会に奉仕する」という理念を基盤とし、以下の6つの重要課題（マテリアリティ）を掲げ、グループ全体でその解決に取り組むことで、持続可能な社会の実現を目指している。

「1. 宮城・東北の活性化」、「2. 地域のお客さまの課題解決」、「3. ステークホルダーへの還元」、「4. 気候変動・災害への対応」、「5. 信頼性の高い金融サービスの提供」、「6. 生き生きと働ける職場環境の創出」

当社が特定したインパクトのうち、「人と動物の豊かな共生社会の実現」、「健康的で働きがいのある職場環境の整備」は、七十七グループの重要課題「1. 宮城・東北の活性化」、「6. 生き生きと働ける職場環境の創出」と、「環境負荷の低減」は、七十七グループの上記「4. 気候変動・災害への対応」と方向性が一致する。

以上のように、七十七銀行は、本 PIF の取り組みを通じて、SDGs の達成および貢献を目指し、資金需要と資金供給のギャップを埋める役割を果たしていくことを目指している。

七十七グループのマテリアリティとSDGs宣言



出所：七十七銀行「統合報告書 2024」

77 七十七リサーチ&コンサルティング
R&C

© 77Research and Consulting Co.,Ltd.



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

七十七グループは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

2. インパクトの評価

特定したインパクトの発現状況をファイナンス後に測定可能なものとするため、ポジティブ・インパクトの拡大、ネガティブ・インパクトの緩和・管理が適切に行われるかを事前に評価する。加えて、特定したインパクトに対してそれぞれ KPI・目標を設定する。なお、特定したインパクトおよび設定する KPI・目標については、追加性（PIF に取り組むことで新たに発生する影響等）があることを確認している。

人と動物の豊かな共生社会の実現

項目	内容
インパクトの種類	社会面においてPIを拡大 経済面においてPIを拡大
UNEP FIのインパクトトピック	<社会> 健康および安全性、雇用 <経済> 零細・中小企業の繁栄
関連するSDGs	 
取組内容・対応方針	・ペットサービス事業を通じて人と動物の健康的で幸福な生活を構築する ・地元雇用を促進する
目標・KPI	目標①：トリミングサロン・猫カフェの売上高の向上 KPI ①：毎年度前年比3%以上 （2024年8月期実績：388百万円） 目標②：東北出身者の採用人数の増加 KPI ②：2027年8月期までの3年間で累計50名以上 （2024年8月期時点の直近3年間の累計採用人数46名） ※2028年8月期以降の目標は改めて設定する

健康的で働きがいのある職場環境の整備

項目	内容
インパクトの種類	社会面・経済面においてPIを拡大 社会面においてNIを抑制、管理
UNEP FIのインパクトトピック	<社会> 健康および安全性、賃金 <経済> 零細・中小企業の繁栄
関連するSDGs	 
取組内容・対応方針	・健康経営に基づき、従業員の残業時間の削減や休暇取得を促進する ・従業員の待遇向上に取り組む
目標・KPI	目標①：健康経営優良法人の認定の取得・継続 KPI ①：2027年8月期までに新規取得・継続 目標②：従業員一人あたりの平均賃金の増加 KPI ②：毎年度1.5%以上増加 （2024年8月期実績：▲3.9%）

環境負荷の低減

項目	内容
インパクトの種類	環境面においてNIを抑制、管理
UNEP FIのインパクトトピック	<環境> 気候の安定性、廃棄物
関連するSDGs	 
取組内容・対応方針	・納品書等の電子化により、紙の廃棄量を削減する ・脱炭素経営への着手
目標・KPI	目標①：コピーおよびプリンターでの利用枚数削減 KPI ①：毎年度3% (2024年8月期：320,225枚) 目標②：CO2 排出量の算定および削減目標の設定 KPI ②：2027年8月期までにCO2排出量を算定し、CO2削減目標を策定

モニタリング

1. 当社のモニタリング体制

当社は、本 PIF に取り組むにあたり、代表取締役社長 大友隆行氏と取締役副社長 大友宣明氏が中心となり会社指針、経営計画、経営課題、事業内容の棚卸を行い、本 PIF のインパクトの特定、目標設定と KPI の策定を行った。

本 PIF 実行後においては、各部門での主体的な管理・推進体制を強化するとともに、各 KPI の達成状況について当社と七十七銀行の担当者間で定期的な面談機会を実施し、進捗を確認する。

なお、七十七銀行に対しては決算期末より 3 か月以内に報告する予定である。

2. 七十七銀行によるモニタリング体制

七十七銀行は、PIF の契約期間中に当社の事業活動から意図したポジティブ・インパクトが継続して生じていること、重大なネガティブ・インパクトが適切に緩和・管理されていることを継続的にモニタリングする。モニタリングは少なくとも年 1 回の実施を契約事項に組み込んでおり、公開情報の確認や日々の対話を通じて達成状況をフォローアップする体制を構築している。また、このフォローアップは単なる進捗確認にとどまらず、必要に応じてインパクト実現に向けた具体的な対応策の提案を含む内容となっている。

結論

当社は、経営理念に基づき、「サステナブル経営」の実現を重要な経営課題の一つとして位置付けている。七十七銀行および 77R&C は、当社の事業活動が創出するインパクトを特定し、妥当性を確認した。今後は、ポジティブ・インパクトの拡大及びネガティブ・インパクトの緩和を目指し、モニタリングを通じてこれらの取組みを支援していく。

以上

1. ポジティブ・インパクト・ファイナンスについて

昨今、年金基金、保険会社、投資運用機関等の機関投資家において、ESG（環境、社会、ガバナンス）情報を考慮した投資が重視され、拡大している。

投資家は企業価値を判断する際、財務情報はもちろん、非財務情報である ESG 側面の取組にも着目し、企業の環境や社会に対する取組姿勢、ガバナンスのあり方、中長期的な経営戦略といった情報の開示を求めつつある。また、国連「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に、投資を通じていかに貢献し得るかという関心も高めている。

2015 年 10 月、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）の銀行及び投資メンバーは、新たな資金調達パラダイムを呼びかけて、ポジティブ・インパクト宣言を行った。宣言では、持続可能な開発と SDGs 達成間のギャップを埋めるためには、持続可能な開発の 3 つの側面の総合的な検討に基づいて、新たなインパクトにもとづいたアプローチが必要であるとしている。

同宣言は、銀行及び投資家が経済、社会、環境面でのプラスの影響を増大する努力を導くための金融における一連の共通原則として、ポジティブ・インパクト金融原則をそのロードマップの中心的要素に据えている。金融業界及びより幅広いステークホルダーに共通言語を提供することで、SDGs に向けた取組の中からビジネス機会を引き出し、持続可能な開発における資金調達のギャップを埋める重要なステップになると期待されている。

2. ポジティブ・インパクト金融原則について

ポジティブ・インパクト金融原則では、ポートフォリオ全体にわたって、ポジティブ・インパクト投融資を、特定・推進し、伝達することを金融機関に求めている。また、企業及びその他の経済的なステークホルダーが、SDGs に焦点をあてたビジネス機会、ビジネスモデルを構築し、その努力に見合う金融機関を見出すことを意図している。

原則は、持続可能な開発の三つの側面を総合的に考慮し、プラス面とマイナス面両方の影響評価にもとづいた、持続可能性の課題に総合的なアプローチを提案している。

ポジティブ・インパクト金融原則の概要

原則 1（定義）

ポジティブ・インパクト金融はポジティブ・インパクト・ビジネスのための金融である。

持続可能な開発の 3 つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらすこと。

ポジティブ・インパクト金融は、このように持続可能性の課題を総合的に評価することから、持続可能な開発目標（SDGs）における資金面での課題に対する直接的な対応策の一つとなる。

原則 2（枠組み）

ポジティブ・インパクト金融を実行するには、事業主体（銀行、投資家等）が、それらの事業活動、プロジェクト、プログラム、及び／又は投融資先の事業主体のポジティブ・インパクトを特定しモニターするための十分なプロセス、方法、ツールが必要である。

原則 3（透明性）

ポジティブ・インパクト金融を提供する主体（銀行、投資家等）は以下の点について透明性の確保と情報開示が求められる。

- ・ポジティブ・インパクトとして資金調達した活動、プロジェクト、プログラム、及び／又は投融資先の事業主体の意図したポジティブ・インパクトについて（原則 1 に関連）。
- ・適格性を判断し、影響をモニターし検証するために確立されたプロセスについて（原則 2 に関連）。
- ・資金調達した活動、プロジェクト、プログラム、及び／又は投融資先の事業主体が達成したインパクトについて（原則 4 に関連）。

原則 4（評価）

事業主体（銀行、投資家等）が提供するポジティブ・インパクト金融は、意図するインパクトの実現度合いによって評価されなければならない。

【出所：UNEPFI「ポジティブ・インパクト金融原則」】